
ハッピーパラダイス

ユー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハッピーパラダイス

【Nコード】

N2791Y

【作者名】

ユ一

【あらすじ】

機械の代わりに魔法文化が発達した異世界「アーク」
モンスター・獣人・龍人・精霊・人間などの多種多様な生物が暮らしているその世界とあるギルドが名をあげていた
その名は「楽園の巨塔」

王道？ファンタジーです

魔法説明？

魔法

階級

低級<中級<上級<超級<神罰級
ちなみにそれぞれの階級の難易度は一つ下の階級の魔法を同時に5種類出すのと同じレベル

属性

火<水<雷<土<風<火

魔法一覧

純粹魔法

一属性の魔力のみで攻撃する魔法
火の球や放電等

属性付加

物質に魔力の属性を付加させる事で攻撃に特徴を付ける魔法
単純な例

火：熱や光で攻撃が出来るようになる

水：水での目眩ましや防御能力の向上

雷：攻撃の加速や痺れ等の身体異常

土：純粹な硬質化と重量の増加

風：切れ味の強化や遠距離斬撃

騒がしいギルド

ハア…ハア…

暗い森を抜けた先にその街はあった

「ここが…」

街に入った瞬間に全身で感じる熱気や活気。

その全てが気にならなくなる程の堂々とそびえ立つ巨塔

「あれが楽園の巨塔…」

最近急に名を上げたギルド「楽園の巨塔」

俺も名を上げる為にここに来た

ちなみに楽園の巨塔の付近では

盗賊集団突然壊滅したり

竜巻の中心で笑う少年を見たりといった怪現象が目撃されている

若干の不安を感じながら大きな扉を開けると最初に視界に飛び込んで来たのは…

「…樽？」

ガンツ…

「うっ…」

俺はそのまま意識を手放した。

若干の頭痛を感じながら目を覚ますとそこにいたのは…
オールバックの…

「…黒いおっさん？」

「…」

「……………」

何故だから睨み合う2人

「…え」と

逃げようかな…

「…」

ガシ…

「…ん？」

背中に違和感を感じた直後

ヒュン

「ヒュン？」

宙を舞う。

「え…」

宙を舞った直後落ちる場所に椅子が滑り込んで来た。

が、本来落下の勢いを殺して座らせる目的だったであろう椅子は鈍い音をたてて俺の背中とぶつかる。

「いきなりなんだよ!？」

うん、これは普通怒るべきだ

つていうかなんで俺は宙に浮いたんだ!？

風属性？いや風は感じなかったし勝手に浮いたみないな感じだった

とか考えていると目の前の床が持ち上がって机のようになった。

「は？」

さらにその光景に驚いていると机の真ん中が更に膨らんで…

小さなおじちゃんが出て来た。

「よっ！」

小さいおじちゃんはこっちを見て笑顔で一言…

「入会を許可する。」

……は？

「まだ何も「言っていないのに」」

なんだこのおっさん

「おっさんは無いだろ？」

また…

「心を読まれるのは気分が悪いか？」このおっさんどうやって…
そんな魔法聞いたことも…

「内緒。」

おっさんの笑顔って気持ち悪いな…

「…」

おっさんは涙目だ。っていつかこのおっさんは誰なんだろうか。
妙な力を持つてるし…

此処まで考えてから気付く。

「おっさん本当に人間か？」

「気付くのが遅い五点減点。」

ハツと後ろを見るとスーツ姿で黒い長髪の男が経っていた。

「それは俺だ」

意味の分からない事を言う男を眺めていると男が一言

「解」

後ろを振り向くとさっきの小さなおじさんは土になっていた

土人形つてあんなに精巧に出来るもんなのか…？

振り向くと男は人差し指を立てて一言。

「内緒。」

「あつそ」

返事を期待した俺が馬鹿だった。

「何だかごちゃごちゃしたが…」

唐突に男が話出す

「正式に、楽園の巨塔への入会を許可する。」

「え…審査とか「面倒くさい」」

キリツとした顔で言う事ではないが気にしないでおこう

「まあ書類は一応書かなきゃいけないけどな…」

と言われて一枚の紙を渡された

記入欄は、名前と身長と使用武器…だけ

「はい」

「えっと…リオン・ミルキーくん？」

「はい」

「じゃあギルドマスターの所に連れて行くね」

笑顔で放った一言がリオンに疑問をもたらした

「あんたがギルドマスターじゃないの？」

「俺は新人」

親指を立てる姿に呆れて一言

「じゃああなたの許可とか最初から「いるよ?」「」

「新人なのに?」

「ギルドメンバーの紹介が入会条件だからね」

「…なるほど」

その時男が俺の腕を掴んで指を鳴らした

…瞬間景色が切り替わる。

明るくて広い部屋で目の前には誰もいない机が一つ

「今のは…「転移、超級空間魔法の一つだよ」」

「そんな事は分かってるよ」

意味が分からない…

詠唱破棄した超級魔法は普通ギルドマスタークラスじゃないと使えない筈

それをいとも簡単に使える

こいつ新人とか言いながら実質かなり強いのか？

「俺は下から2番目だよ」

「何人中？」

「確か〱260人くらいかな？」

うん…意味分かん

そりゃこのギルド有名になる筈だわ…

「ちなみにギルドマスターは毎年ギルドで一番強い人間が勤めます」
うん俺無理。

その時再び視界が切り替わる

「…え？」

今回は男も慌てている

「ヤベ…解散!!」

「え？」

そう言われた時には男は消えていた。

解散…って言われても…

こうして俺のギルド初日は振り回されるだけ振り回されて終了した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2791y/>

ハッピーパラダイス

2011年11月15日21時34分発行